

り動かない時は冗句のひとつとも言えるよう、うまくいかない時の練習もしておきます。これを contingency plan と言います。この英語には日本語にちょうど良い言葉がないので、「次善の策計画」と考えてください。デモが上手く行かない事は良くあるので、現実問題として「次善の策」は常に考えておきます。デモをする人が別にいる場合は、その人には専用の台本が要ります。デモの手順を間違えると失敗するので、複数のステップが必要なデモなら専門の人にやらせようと安全です。会場でのリハーサル時にはデモが正しく動くかの確認をしておきます。それでも舞台の上ではデモの手順を間違える事がよくあるので、手順を紙に書いてそれを見ながらデモをすると安全です。緊張している場面では誰でもミスをするので、十分に練習しておきます。

《先のスティーブ・ジョブスの例では、会場のWi-Fi電波が聴衆の持つ多数のパソコンのせいで飽和して、リハーサルでは上手く動いたiPhone4のデモが本番で動かない事件がありました。でもさすがはスティーブ・ジョブスです。30分後に原因をスタッフに教えてもらおうと、彼はすぐに舞台上から聴衆にWi-Fiの利用を一時停止して、各自のパソコンは閉じるよう協力を要請しました。その結果再度試みた彼のデモはめでたく成功し、会場の聴衆も大満足しました。》

聞き手が理解しているかどうかを目で確認しながらプレゼンを進めるので、聞き手の表情が読めない場合は要所要所で質問を投げかけて確認します。このため英語での質問も前もって台本に入れておきます。聞き手の目を見て話す、いわゆる eye contact ができれば完璧です。何度も発表の練習することで、自信をもって舞台に臨むことができます。

熱意を持ってプレゼンしてくれる人は、回りの人を感動させることができます。演劇と同じです。いいショーを見せてもらったと聞き手が納得すれば、自然と拍手が起こります。言葉で人を動かすのは、人の上に立つ人に必須の技術です。良い役者になって下さい。

《アメリカの小学生はクラスで Show and Tell という発表をします。家から自分のおもちゃや写真などを教室に持参し、それにまつわる話をします。話は何でも良くて、要は皆の前で話す練習です。小さい頃からこうして鍛えられたアメリカ人は public speaking に慣れています。このような人前で話す練習は日本でも必要になるでしょう。》